



## 「かながわ人づくりコラボ2018」を振り返って

かながわ人づくり推進ネットワーク幹事会

### 幹事長総括

- 当日は、「夢と可能性への挑戦～かなえる力を育む人づくり～」を全体のテーマとして、「はやぶさ」プロジェクト成功の立役者の的川泰宣氏による基調講演をはじめ、横須賀市の小学校・中学校の英語教育の取組み、県立上矢部高等学校美術科の取組みに係る実践紹介とそれらに基づく教育論議を行うことができ、大変充実したコラボとなったと思っています。
- 基調講演では、「『はやぶさ』に夢を乗せて」という演題のもと、「はやぶさプロジェクト」での的川氏の実体験も交えながら、異なる考えを持った人たちの集まりの大切さ、想定外を想定する心構え、あきらめない心、そして未来への高い志を持つということなどが、今回のテーマである「夢を叶える力」につながるのではないかと考えさせられました。
- 実践紹介では、英語の学習を通じてコミュニケーション能力の育成や多文化理解の促進などを図りながら「思いやる力」などを育てている横須賀市の英語教育の授業風景を映した映像や、学校の特色を生かし早い段階から専門的・実践的な学びを通じて「たくましく生きる力」や「社会とかかわる力」などを育てている県立上矢部高校で学ぶ生徒達自身による発表を通じ、今の学校現場における教育の姿、かながわの人づくりの様子、生き生きと子ども達が学んでいる様子を多くの方に伝えることができたのではないかとと思っています。
- そして、教育論議では、それぞれの実践紹介の内容に基づき、学識者や発表者、更には高校生や大学生、PTAの方などの登壇者8名と、保護者、学生、教職員、企業、行政など幅広い年齢、立場の参加者319名とで課題や解決方法などについて話し合うことができました。
- 実践紹介や教育論議での話し合いを通じて、本コラボのテーマについて、参加者それぞれの立場から、何が必要なのか、何ができるのかについて考えるとともに、これからの社会では、多様な他者を受け入れ、協働することの重要性や、多様な実体験を通じた学びによる個性の育成など、確かな自己を基盤にした「しなやかな人づくり」が必要であることを発信し、参加者同士で共有することができました。
- また、今年度も、教育論議では、会場の参加者がお互いに話し合える機会を設けることで参加意識を高めた結果、大学生や高校生の参加者からの活発な発言があり、主体的に意見を発信しようとする意気込みが感じられ、大変頼もしく思いました。
- 私たちネットワーク参加団体は、各団体の取組みを尊重しつつ、毎年開催している「かながわ人づくりコラボ」での県民の方々との教育論議を通じて、教育ビジョンの「心ふれあう しなやかな 人づくり」をめざして、『思いやる力』『たくましく生きる力』『社会とかかわる力』の育成を、それぞれの立場と役割を自覚しながら取り組んでいきます。今後とも参加団体の皆様には、より一層のご尽力をいただきますよう、引き続きよろしくお願ひします。

※詳細な結果概要は、県教育委員会ホームページか、かながわ人づくり推進ネットワークホームページに掲載している「『かながわ人づくりコラボ2018』の実施結果の概要」をご覧ください。

### 【コラボ2018の開催概要】

- 1 日時・場所 平成30年11月3日(土・祝) 13:30~16:10 横浜市西公会堂 【参加者 319名】
- 2 テーマ 夢と可能性への挑戦 ~かなえる力を育む人づくり~
- 3 プログラム
  - (1) 基調講演「『はやぶさ』に夢を乗せて」  
(宇宙航空研究開発機構 (JAXA) 名誉教授/はまぎんこども宇宙科学館 館長 的川 泰宣)
  - (2) 実践紹介と教育論議
    - ①横須賀市の小学校・中学校の英語教育の取組み (実践紹介者: 横須賀市教育委員会)
    - ②県立上矢部高等学校美術科の取組み (実践紹介者: 県立上矢部高等学校)

〈教育論議の登壇者〉

◎コーディネーター（①、②共通）

玉川大学教授 坂野 慎二 氏 ※かみながわ人づくり推進ネットワーク幹事

①横須賀市の小学校・中学校の英語教育の取組み

横須賀市教育委員会主査指導主事、横須賀市立諏訪小学校PTA会長、県教育委員会委員

②県立上矢部高等学校美術科の取組み

県立上矢部高等学校教頭、県立上矢部高等学校普通科美術コース3年生、  
東京藝術大学 先端芸術表現科1年（県立上矢部高等学校卒業生）、県教育委員会委員

《教育論議での主な意見》

①横須賀市の小学校・中学校の英語教育の取組み

- ・ 外国語を使ったコミュニケーションとは言葉や文化の違う人達と心を通わせることであり、相手を意識することで自分自身への理解も進むのではないかと考えている。
- ・ 英語そのものというより、積極性や言語が通じなくても人と意思疎通しようという気持ちを育んでほしい。
- ・ 今後、ますます英語というものが様々な分野で必要になっていくことが予想される中、共通語としての英語を学ぶことで、自分を海外に発信していくことや、職業選択の幅も広がるように思う。

②県立上矢部高等学校美術科の取組み

- ・ 企業と連携した上矢部高校の取組みは、将来、仕事をする際に課されるようなリアルな条件の中での活動になり、生徒の皆様にとって非常に素晴らしい体験になったと思う。
- ・ 今回の学習指導要領の改訂においては、小学校段階から将来を見据えたキャリア教育の積極的な推進が示されているが、今の進学状況から察するに、高校進学で進路をある程度決めて進学するのは難しいように思われる。
- ・ 専門学科のイメージで、専門的で授業についていけないかわからないという声を聞くことがある。そのような不安を払拭するために、各学校でも積極的な情報発信をしていく必要があると思う。

今後の方向性

- これからの子どもたちが生きていく社会では、多様な他者と協働していくことがますます重要になっていく。そうした時代の中では、他者を受け入れつつも、確かな自己を基盤に生きていくことが出来る、しなやかな人づくりが必要となる。そのためにも、幼少期から日本語以外の言語に触れることは、言葉の持つ豊かさや日本とは異なる文化を知るとともに、自分のアイデンティティの根幹をなす自国の文化や言葉を顧みる良い機会にもなるので、県内全体で横須賀市のような取組みが広まっていくことに期待したい。
- 神奈川県では県立高校改革が進められており、そのコンセプトとして「生徒の学びと成長にとって何が重要かという視点を最優先にする（スチューデント・ファースト）」という基本的な考え方に立って、様々な取組みがなされている。その中で、個性や能力を生かすことができる質の高い教育の推進をめざすとともに、児童・生徒の多様な進路・可能性に対応するべく、専門学科の改編も進められていく。

そうした中で、神奈川県には多くの選択肢があるので、その分野での専門性を伸ばしてみたい方は積極的に挑戦してほしい。また、児童・生徒に多様な経験をさせるということは、専門学科であっても、学校教育の中だけでは難しい面もあるので、民間企業の皆様など、様々な方の力を借りながら進めていくことに期待したい。